

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470301108
法人名	有限会社アルファルファ アンド カンパニー
事業所名	グループホーム太陽の家
所在地 (電話番号)	三重県鈴鹿市西條町495-1 (電話) 059-383-8383
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 5 月 22 日(火)

【情報提供票より】 (H19年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~85,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円程度
敷金	有() 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 1,000,000 円	有りの場合 償却の有無	有() / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84.2 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	玉田医院・フレンド歯科・鈴鹿中央病院・湯浅整形
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鈴鹿市の中央通りという幹線道路に面して建てられており、デイサービス併設の開設4年目の新しい施設である。内部は広くゆったりとしており、各居室にはトイレと洗面台があり、利用者の尊厳を尊重した支援がなされている。理念にある「喜び、笑い、愛情」ゆたかな職員ばかりで、食事時も笑いのある楽しい雰囲気である。年4回の家族会もあり、家族同士のつながりもあり、また市内の同業事業者と協力しての「お達者ひろば」という作品展を大型ショッピングセンターで開催しており、強いネットワークとリーダーシップのあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査の改善課題であった介護計画の見直しや相談苦情体制の明示はいずれも改善されていたが、献立を考えたり食材の買物や調理に関しては、理解はされているが現行方式(業者委託)の方がメリットありとの判断で継続されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>総括(代表)はじめ職員は自己評価の意義、目的をよく理解しており、全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議が未開催である。メンバー人選上の問題を早期に解決され、早期開催を期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年4回の家族会もあり、意見交換の場を設けたり、利用者と同じ食事をしてもらい意見を吸い上げる努力はされている。家族意見が少ない場合は、アンケートの利用や家族だけの意見交換の場を設ける等も考慮してほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームイベントの時に来てもらうとか買い物や外食の機会を通して近隣の店舗と関係を深められることを期待する。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「喜び、笑い、愛情を持って尊厳ある生活を営むことを支援する」と明確な理念を持ち、事業所のサービスのあり方の基本としている。	○	住み慣れた地域での安心した暮らしの継続を支えるための支援(地域密着)の具体的なイメージが抱ける理念としてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や毎朝の朝礼で唱和しており、管理者・職員ともに理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は鈴鹿市の中央幹線道路沿いの商業地の中にあり、大型商店街ばかりで住宅地のような地域活動はないが、地元の保育園行事への参加や散歩のときに掃除やごみを拾って帰る等の地域とのつながりに努めている。	○	ホームのイベントの時に来てもらうとか、買い物や外食の機会を通じて近隣店舗と関係を深めることに努力されることを望む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、目的を全職員に伝え全員で自己評価に取り組んでいるし、昨年の評価時の指摘事項に対しても、改善をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーの人選に苦慮しており、開催できていない。	○	会議メンバーの人選を速やかに行い、早期の開催を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所所属の介護相談員の訪問を受けており、市役所への行き来は多い。	○	事業所は認知症ケアの拠点でありパイオニアでもあることを念頭に、それを生かした地域貢献や事業を行っていく上での課題等にも、積極的に行政を巻き込んで解決していく姿勢をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の家族会もあり状況報告をしているし、毎月の請求書と同時に頼りや行事の写真を送り、家族と連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会のときに意見交換の場を設けたり、食事についても事業所と同じものを食べてもらって意見を吸い上げる等努力している。	○	努力はしているが家族からの意見が少ない。率直な意見が出るようアンケート方式にしたり、家族同士の話し合いの場等では職員は席を外す等の検討もお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者としては極力就労しやすい配慮をしているし、万一の離職時は速やかに補充する努力をしている。	○	利用者や家族のダメージを除く意味でも、新人が入ったり離職があったときは、速やかに情報を流し紹介する等最善の努力をお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修にも参加しており、研修を受ける機会は職員平等に確保されているし、研修後の内部報告も全職員が見ることができるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者がグループホーム連絡協議会の役員をしており、県内同業者とのネットワークは十分ある。近隣では市内13事業所と協力し「お達者ひろば」として年1回大手ショッピングセンターで作品展を開催する等交流を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスが併設されており、そこから入居に移られる人が多く、その場合は「馴染みの関係」に問題ないが、即入居という事情の方の場合は、本人家族含めた面接だけでサービス開始せざるを得ない。	○	即入居せざるを得ない緊急の場合でも、少しでも本人の途惑いのないようデイサービスの利用やホームの見学等に時間をかけるなど工夫をお願いしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「四六時中一緒にすごしている」と職員が感じるくらい一緒に作業したり遊んだりしながら、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	旅行や外出、外食等何をするにも本人の意見を尊重するよう努めており、生活を支えるアセスメントを日常的に行っている。	○	本人の意向を尊重したくても家族の同意が得られない場合もある。家族との意見交換等意思疎通を図り、理解を求める努力も必要である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見は面会時や家族会のときに吸収しているし月1回のケアカンファレンス会議で全職員の意見を取り入れて介護計画書を作り、家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化があれば随時見直しを行うし、定期的には半年に1回行っている。毎月のケアカンファレンス会議で新しい計画をプラスした人は計画書を変更している。	○	安定している人でも、月1回程度は点検の意味を含め、職員全員で確認してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	不穏になったり落ち着かない様子の時は、雰囲気を変えるためにも、併設のデイサービスを利用している。また病院に行く人の車に他の利用者も同乗し、回り道して海岸に行ったり希望に沿った外出支援をしている。	○	併設のデイサービス等の多機能性を活かして「認知症対象のデイサービス」や地域の人向けの「介護教室」の開催を検討している。早期実現を期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が提携医をかかりつけ医としているので、日々の変化には待ち時間なしで即応できる態勢にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては終末まで見る方針であることを家族会の際に話合ったりアンケートをとって意向を確認している。しかし本人が元気なときと終末に直面したときとで家族の考えが変わるときもあり苦慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りのとき等プライバシーを損ねるような会話や資料は特に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたいところを聞き、天気がよければ散歩や夜のドライブなど、一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、盛り付け、後片付け等はみんなで行っているが、食材の調達や調理は業者委託である。	○	職員が調理にかかわる分利用者へのかかわる時間が減るとか、調理が手伝える人が一部の人に限られ、不満につながるという問題もあるが、業務委託はグループホーム本来の意義を思い出していただき再検討をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ふだん午後から夕方に入られる方が多く、ほとんど毎日入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野や過去の経歴はフェースシートに書いており、その時々にも聞いて追加している。食器の後片付けやテーブル拭き、洗濯物たたみ、掃除等分担して行っており、当番制になっているものもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的といっても天気の良い日に限られるが、散歩や近くの喫茶店に行ったり、外食のための外出支援を頻繁に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、ホームの前は鈴鹿一のメイン道路で車両も多いが、施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練しているが、避難は大変なので「火を出さない」方に注力している。ホームの前が24時間オープンなスーパーであり、万一の場合の援助をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理業者の栄養士が栄養管理しており、毎食メニューにカロリー値が書いてあるし摂取量も管理している。しかし水分確保が昼はヤカン、夜は水筒を渡しているが特に記録がない。	○	食事の栄養バランスと同様に水分摂取量の管理も大切である。一人ひとりの能力に応じた支援をお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設っぽい幼稚な飾りはなく、写真や絵画も品良く飾っており共用スペースも居心地よく工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや家具全部が自宅で使っていたものを持ち込んでいるし、西側の窓には西日が当たらないようにスタレを掛けるという工夫もしている。	○	居室の壁に簡単に飾りつけ等ができるように、コルクボードを各居室につける計画がある。ぜひ早期実現をお願いしたい。